

2019年(平成31年)度～2022年(令和4年)度

学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立逗子小学校】

教育環境の充実		4年間を見据えた取組内容		地域との協働推進	
		2019年(平成31年)度	2020年(令和2年)度	2021年(令和3年)度	2022年(令和4年)度
期首入力	学校の 実態と課 題	①学校安全については、火災・地震(津波)・不審者対応の避難訓練を学校として行 なっており、さらに文化教育ゾーンとしての訓練に参加している。 ②教科指導におけるICTの活用については、教室のプロジェクターや配備している実 物投影機の数が増え、十分に活用できていない。 ③地域との協働については、学校支援地域本部事業やPTA活動における協働、地域 行事の逗子小での開催等に取組んでいる。 ④学校評価については、学校評議員や学校関係者評価委員だけでなく、日頃から保 護者・地域の方々の意見に学校として耳を傾けている。	・手すりの修繕など「学校の生活環境を整えていくのは本来、市が行うべき仕 事であるのに・・・。」という考えの保護者の方々への説明責任を学校としてき ちんと果たしていく必要がある。 ・これまで学校支援地域本部事業を支えてきてくださった方々の後継者の育 成が急務である。 ・老朽化した校舎にはいくつも修繕が必要なおとところがあるが、なかなか予算的 に厳しいものがある。 ・自然災害の激甚化により、従来行ってきた学校の対応を検討する必要が出 てきた。		
	年度目 標	・学校の構造上、防災・防犯面では脆弱な所があるので、避難訓練や日常的 な防犯・防災教育で児童の意識を高めていく。 ・学校支援地域本部事業での様々な取り組みやPTA活動、ふれあいスク ール・学童との情報交換等を通じて、学校に求められていることは何かを見つ け、学校としてできる範囲で前向きに保護者や地域との連携を進めていく。			
	取組計 画	・児童や教職員の学校での教育活動を支えるため、 またより充実したものとするためのリソースとして保 護者や地域を捉え、連携をさらに進めていく。			
期末入力	実践した 内容	・避難訓練の実施(火災避難訓練・地震避難訓練・津波避難訓練・不審者侵 入避難訓練) ・津波避難訓練は文化教育ゾーンの訓練に参加 ・従来の学校支援地域本部事業のほかに、今年度はPTAと協力して募金とボ ランティアを募り、各教室のベランダの手すりのさび止め塗料の塗布を実施し た。 ・学童の指導者とふれあいスクールの指導者と毎月情報交換を実施し、学校 以外での児童の状況把握に努めた。			
	達成度 評価	A			
	評価の 根拠	・従来の学校支援地域本部事業に加え、PTAとの協力により手すりの修繕を 行い、子どもたちの生活環境が改善された。また、当日は多くのボランティア の保護者の方々が参加していただき、募金もたくさん集まった。 ・学童の指導者、ふれあいスクールの指導者と定期的に情報交換をすること で、児童の友達関係や学校では見られない児童の様子などについて把握す ることができた。また、不審者対応訓練などを学童・ふれあいスクールの指導 員の方々に見学していただき、学校との連携をとることができた。			
	学校の 実態を踏 まえた課 題	・手すりの修繕など「学校の生活環境を整えていくのは本来、市が行うべき仕 事であるのに・・・。」という考えの保護者の方々への説明責任を学校としてき ちんと果たしていく必要がある。 ・これまで学校支援地域本部事業を支えてきてくださった方々の後継者の育 成が急務である。 ・老朽化した校舎にはいくつも修繕が必要なおとところがあるが、なかなか予算的 に厳しいものがある。 ・自然災害の激甚化により、従来行ってきた学校の対応を検討する必要が出 てきた。			

2019年(平成31年)度～2022年(令和4年)度

学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立逗子小学校】

柱Ⅰ		学習指導の充実		4年間を見据えた取組内容		今日的課題への取組	
		2019年(平成31年)度	2020年(令和2年)度	2021年(令和3年)度	2022年(令和4年)度		
期首入力	学校の 実態と課 題	①授業改善については、新しい学習指導要領の完全実施に向けて授業研究を進めている。また、教員の自己チェックリストも活用している。 ②児童体力づくりの面では、授業教諭による食育の授業や養護教諭による保健の授業等を行っている。また、児童のSNSの使用についても外部機関に依頼して授業を行っている。 ③体験活動では、街探検や学区を中心とした校外学習、高学年の林間学校や修学旅行などを行ない、実感の伴った体験活動を実施している。 ④今日的課題については、様々な内容が学校教育の中に取り込まれているが、何をどのように学ばせるかを考えていく必要がある。	・新しい学習指導要領に基づいた学習の改善については、これからも努力が必要で、実践を積み重ねながら進めていく必要があり、児童の実態も学年や発達段階に応じて異なってくるので日々、意識しながら取り組んでく必要がある。 ・ICT機器を活用した授業への取り組みは、Wi-Fi環境の整備が急務であり、特別支援学級を含めて27クラスある本校にとって40台のタブレット端末では活用したいときに活用できずに順番待ちという実態がある。	0	0		
	↓	↓	↓	↓	↓		
	年度目 標	・授業研究や研修を通じて授業改善を進めていく。 ・日常の学校生活はもちろんのこと道徳の授業への取り組みや異年齢集団による縦割り集団活動等を通じて児童の社会性を育成していく。 ・学習規律を身につけさせ、落ち着いた学習に取り組めるようにする。					
期末入力	取組計 画	・今、学校で取組まなければならない課題がすべて「今日的課題」だと考えている。教育の本質は不易だが、児童や教職員を取り巻く環境はたえず変化しているの、それらを踏まえて学校として臨機応変に「今日的課題」に取り組んでいく。					
	↓	↓	↓	↓	↓		
	実践した 内容	・新しい学習指導要領の全面実施を踏まえた校内授業研究の実践と研究会での発表を行った。 ・新しい学習指導要領への移行期間中の取り組みについて学年ごとに把握し、漏れのないよう取り組んだ。 ・縦割り活動や児童会行事での異年齢集団による活動を実施した。 ・1年生の始まりに「スタートカリキュラム」の実践を行った。					
期首入力	達成度 評価	A					
	↓	↓	↓	↓	↓		
	評価の 根拠	・湘南三浦教育事務所管内の教育課程研究発表会や県の小学校体育教育研究会において校内研究の取り組みの発表を行い、一定の評価を得ることができた。 ・新しい学習指導要領への移行に向けてチェックリストを作成し、各学年で取り組み状況をチェックした。 ・年度途中に導入されたタブレット型端末の使用が進み、児童が興味を持って授業に臨む姿が見られた。 ・児童の学習場面に、外部からの講師等呼び、体験的な学習などを積極的にに行った。					
期首入力	↓	↓	↓	↓	↓		
	学校の 実態を踏 まえた課 題	・新しい学習指導要領に基づいた学習の改善については、これからも努力が必要で、実践を積み重ねながら進めていく必要があり、児童の実態も学年や発達段階に応じて異なってくるので日々、意識しながら取り組んでく必要がある。 ・ICT機器を活用した授業への取り組みは、Wi-Fi環境の整備が急務であり、特別支援学級を含めて27クラスある本校にとって40台のタブレット端末では活用したいときに活用できずに順番待ちという実態がある。					

2019年(平成31年)度～2022年(令和4年)度

学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立逗子小学校】

柱Ⅱ 支援の充実		4年間を見据えた取組内容		支援環境の充実	
		2019年(平成31年)度	2020年(令和2年)度	2021年(令和3年)度	2022年(令和4年)度
期首入力	学校の 実態と課題	①支援環境の充実については、教育相談コーディネーターを中心に外部機関とも連携して取り組んでいる。 ②居場所づくり・絆づくりについては、自己チェックリスト等を活用し学級経営を振り返り、巡回支援チームからもアドバイスをいただき参考としている。 ③問題行動・不登校対策については、未然防止のために教育相談コーディネーターや児童指導支援部との情報交換、ふれあいスクール・学年との情報交換などを密に行っている。 ④幼保小・小中の連携については、幼保小間の連携は園児・児童の間で交流があるが、小・中の間では中学の教員が授業を実施している以外はあまり無い。	・年々、支援ニーズを持つ児童が増えてきており、支援の方法等について巡回支援チーム等からアドバイスをいただいて、学年・担任・教育相談コーディネーター・管理職等で打ち合わせをしているが内容が多岐にわたり、また、時間もかかりたいへんである。 ・児童への支援にとどまらず、家庭や保護者への支援が必要なケースも多く、外部機関とも更に連携していかねば対応できない。 ・学校から、あるいは担任から保護者への説明責任がきちんと果たせていないと、いろいろな面で関係がこじれてしまうことがある。 ・学年として、担任として支援ニーズを持つ児童等へどのように支援をすべきかを主体的に考える必要がある。		
	↓	↓	↓	↓	
	年度目標	・学級の課題を学年で共有し、学年の課題を学校で共有することによって「支援環境の充実」「安心できる居場所づくり、絆づくり」「問題行動や不登校対策」等について共通理解、共通の取組を行なう。 ・ケースによっては、外部機関の力を借りて支援にあたる。 ・スタートカリキュラムについての取り組みを進める。			
期末入力	取組計画	・教育相談コーディネーターを中心として、児童指導支援部との情報交換、巡回支援チームとの振り返りなどで教職員間の情報共有を図り、児童理解を進め、それぞれのニーズにあった支援を行なっていく。			
	↓	↓	↓	↓	
	実践した内容	・巡回支援チームが来校した折には、教育相談コーディネーターを中心に管理職との振り返り、その日に見ていただいた学年との振り返りを設けて行い、授業改善、学級経営の改善に取り組んだ。 ・教育研究相談センター、児童相談所、子育て支援課、放課後デイ等の外部機関とも連携を取り、支援ニーズを持つ児童、家庭に対して支援を心掛けた。 ・スタートカリキュラムについては、年度当初一年生で取り組んだ。			
期首入力	達成度評価	<b>A</b>			
	↓	↓	↓	↓	
	評価の根拠	・支援ニーズを持つ児童への支援が計画的、組織的に行われ、不登校気味の児童も学校へ通うようになった。 ・教育相談コーディネーターを中心として、関係する教員や外部機関との連携した取り組みが行われている。 ・教員ではなかなか対応が難しいケースについてはスクールのカウンセラー等に直接保護者のカウンセリング等を行っていただいた。			
期首入力	学校の 実態を踏 まえた課題	・年々、支援ニーズを持つ児童が増えてきており、支援の方法等について巡回支援チーム等からアドバイスをいただいて、学年・担任・教育相談コーディネーター・管理職等で打ち合わせをしているが内容が多岐にわたり、また、時間もかかりたいへんである。 ・児童への支援にとどまらず、家庭や保護者への支援が必要なケースも多く、外部機関とも更に連携していかねば対応できない。 ・学校から、あるいは担任から保護者への説明責任がきちんと果たせていないと、いろいろな面で関係がこじれてしまうことがある。 ・学年として、担任として支援ニーズを持つ児童等へどのように支援をすべきかを主体的に考える必要がある。			
	↓	↓	↓	↓	

2019年(平成31年)度～2022年(令和4年)度

学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立逗子小学校】

<b>柱Ⅲ</b>	<b>学校組織の充実</b>	4年間を見据えた取組内容	研究・研修の充実	
-----------	----------------	--------------	----------	--

2019年(平成31年)度	2020年(令和2年)度	2021年(令和3年)度	2022年(令和4年)度
---------------	--------------	--------------	--------------

期首入力	学校の 実態と課 題	①学校・学年・学級経営の充実については、学年職員間で意思の疎通を図り、また、学校経営については様々な面で組織的に対応できるように取り組んでいる。 ②授業改善だけでなく、児童理解においても研究・研修を行なっている。 ③信頼に基づいた指導については、学級通信や懇談会、面談等だけでなく、日頃から教員としての説明責任を果たすよう心がけている。 ④働き方改革については、学級事務や成績・評価のための時間を確保し、超過勤務にならないよう学校全体で取り組んでいる。	・これまで総括教諭として校務分掌の仕事を中心にしてきたメンバーや、ベテラン事務職が今後2、3年のうちに退職や異動を迎えることになり、逗子小として取り組んできたこれまでの様々なことや残すべき文化や伝統などを継承し、尚且つ発展させていくことが大きな課題であると考えている。		
	年度目 標	・自己チェックリスト等を活用し、学級運営等について振り返る。また学校経営については保護者・地域のニーズを踏まえて学校の枠の中で取り組んでいく。 ・外部講師による研修や研究授業に対する指導助言等だけでなく、参加した研修内容の還元等を行なうことで教育活動を充実させる。 ・校務支援システム有効活用を図る。			
	取組計 画	・若い世代の教員が増えてきて、ベテラン教員が退職していく中、継承していくべき学校文化や共有すべき学習教材や手法、児童理解のあり方等を学校全体で考え、継承し、より良い教育活動に取り組んでいく。			

期末入力	実践した 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい学習指導要領の全面実施に向けて、年間の学校行事等の見直しを図り、授業時数の確保に取り組んだ。</li> <li>・働き方改革の取り組みとして、これまでであった様々な行事等を見直し、成績をつける時間や研究に取り組む時間、授業の準備をする時間の確保などに取り組んだ。</li> <li>・中堅、ベテランの教員を中心に、学年体制を組み、学年経営・学級経営について常に話し合いながら行うよう取り組んできた。</li> </ul>			
	達成度 評価	<b>B</b>			
	評価の 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手教員、中堅教員、ベテラン教員それぞれが力を発揮して取り組んできているが、それぞれが抱えるクラスや学年の課題を解決していくためにいつも遅くまで仕事をしたり、休日出勤をしていることが多い。</li> <li>・学年としてどのような方針で学年の児童を育てていこうと共通理解を図っていると思うが、なかなか保護者にはそのことが伝わらず、児童指導や様々な面に対応に苦慮している。</li> <li>・県費負担教職員、市費職員、臨時的任用教職員、非常勤教職員などおり、また、逗子小以外にも学校を掛け持ちしている教員など、様々な立ち番の教職員がいる中で、細かい意思の疎通を図るのが難しいこともある。</li> </ul>			

期末入力	学校の 実態を踏 まえた課 題	・これまで総括教諭として校務分掌の仕事を中心にしてきたメンバーや、ベテラン事務職が今後2、3年のうちに退職や異動を迎えることになり、逗子小として取り組んできたこれまでの様々なことや残すべき文化や伝統などを継承し、尚且つ発展させていくことが大きな課題であると考えている。			